

中河公民館

「三里山の整備と地域活性化について」

- ・登山の需要創出と観光連携: 鯖江駅から三里山を目指すハイキング需要を掘り起こし、ハピラインふくい等と連携して沿線に「低山ブーム」を作りたいという提案がなされた。具体的には、家族連れでも楽しめるよう、出口木引の登山口から三里山を巡る約2km のコース整備が提案された。
- ・展望台の設置と眺望の確保: 現在、三里山の山頂には展望台がないため、南越前町にあるような展望台の設置や、眺望を遮る樹木の伐採を求める声が上がった。これにより、地元への愛着（郷土愛）を育む効果も期待されている。
- ・登山道の維持管理: 毎年の倒木処理に町内やまちづくり協議会の予算から20万円～30万円を費やしており、負担となっています。また、かつて展望が良かった「三岩（みついわ）」などの名所も現在は樹木に覆われており、地権者の協力を得た再整備と、若手による継続的な管理体制の構築が課題となっている。
- ・多目的利用と経済波及効果: トレイルランニングのコースとしての活用や、登山後に駅周辺の飲食店（焼き鳥店等）や眼鏡会館へ立ち寄ってもらう仕組みを作り、地元を経済的な利益が落ちるような誘導策が必要であると指摘された。

「行政運営と地域課題について」

- ・南北の地域間交流: 三里山周辺の南側と北側では住民の熱量に温度差があるため、南北を繋ぐ交流や、将来的には越前市と鯖江市を繋ぐトンネル建設などの大規模な構想を、市議会が国や県に働きかけて検討すべきとの意見が出された。
- ・人口減少と少子化対策: 人口の自然減（死亡数が出生数を上回る）が深刻化している。対策として、AI の活用による人手不足解消の是非や、子供を持つことが経済的に有利になるような大胆な税制優遇（市民税や所得税の減免）を国・市レベルで検討すべきとの提言があった。
- ・地域コミュニティにおける女性の活躍: 町内会の役員や区長への女性登用が進まない現状に対し、「ジェンダーギャップ」という言葉が生活実感に乏しいとの指摘があった。一方で、防災の観点からは避難所運営などで女性の視点は不可欠であり、役割を固定せず、得意分野を活かして家族単位やチームで地域活動に参加できるモデルケースが必要である。

- ・民生委員をしているが、高齢者に成年後見人をつけてはどうかと近隣の人から言われるが、どうしたらよいか。
- ・地域（中河地区）の除雪について。
- ・企業誘致を考え、すすめるべきではないか。
- ・人口減少、高齢社会、空き家問題について話し合ったが、一番気になるのは空き家問題。
- ・個人で保護猫の去勢・避妊手術を20件してきたが、市の対応について伺いたい。

「環境・情報伝達に関する具体的な要望」

- ・ゴミ分別の実効性: ゴミ袋への氏名記入については、プライバシーの懸念はあるものの、不法投棄の抑止力として一定の効果があるとの評価が示された。
- ・広報ポスターの改善: 環境政策課が配布するラミネート加工されたポスターについて、白抜き文字が太陽光で消えて読めなくなるという問題が2年前から指摘されている。
- ・区長が毎年貼り替える手間が発生しており、デザインの早急な改善が必要。
- ・情報共有システムの最適化: 市が推進する「結いネット」の加入率が約20%と低いことが問題視された。

「防災について」

- ・災害時には、聴覚障がい者に対し目に見える情報提供方法を考えてほしい。
- ・町内に自主防災組織をつくってあるが、非常時には有効に動くか心配している。区長が常時いるとは限らないので、しっかり市で指導助言してほしい。
- ・防災スカーフについて当事者の会として市に要望したが、積極的ではなかった。福井市や越前市では作成してあるが、後ろ向きの返事に落胆した。
- ・河和田地区等の雪深い地域に住む一人暮らし高齢者や障がい者が降雪時に非常事態が発生した場合、救急車が来てくれるか心配である。当該町内の区長と消防組合で協議しているのか。

「交通手段について」

- ・コミュニティバスの運行便数が少ない。必要な時間帯には充実してほしい。
- ・福祉タクシーも利用できる時間が限られている。

「議会について」

- ・聴覚障がい者であるが、議会に関心がある内容の質問がある場合、傍聴に行きたいが、いつでも傍聴可能か。質問事項はいつ、どうやってわかるか。
- ・ユーチューブで議会を見ると、字幕が表示されていないので、表示できないか。
- ・市議会で今回のコメ価格の高騰など、自分たちに直接関係が深い農業に関する質問をしてくれる議員があまりいないように思う。